

掲載新聞

日刊工業新聞社

掲載年月

2014年 11月 28日

掲載対象

ファイバーミル

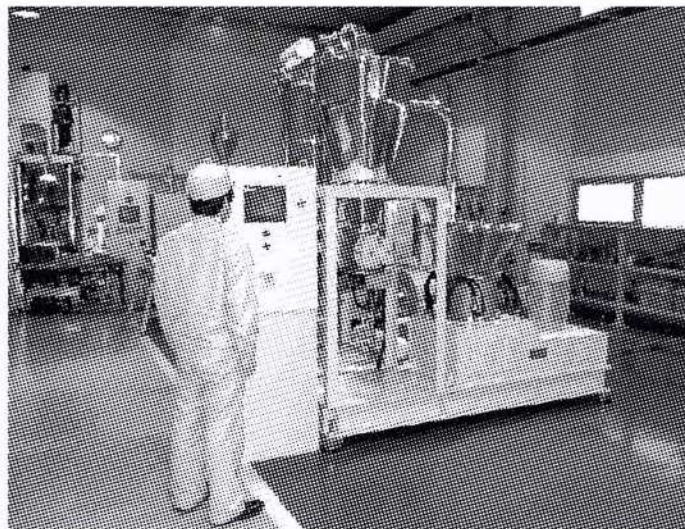
繊維状製品

塊のまま連続剪断

粉山重工が 1工程で減容処理

【名古屋】杉山重工（愛知県瀬戸市、杉山大介社長、0561・48・1811）は、繊維状製品を連続剪断する粉砕機「ファイバーミル」を開発、発売した。紙おむつや車高用防音材、断熱材などを塊のまま投入でき、高速剪断と粉砕品分別分級を同時に行う。従来、複数工程で行っている繊維状製品の再生・廃棄のための減容処理が1工程でできる。粉砕機とブロワー、回収タンクなどで構成するラインで提案する。価格は1000万円程度から。2016年3月期に50台の販売を目指す。

粉砕機「ファイバーミル」の粉砕室寸法は直径250ミリから。投入すると、対向する形で配置した固定刃と高速回転する刃がハサミの原理で剪断する。断熱材などで使うガラスウールなら、最もその後、サイクロンやバックフィルターを通じて回収する仕組み。刃とセパレーターはステンレスなどを使用。刃にはタンクステンカーバイドの焼成チップを溶着し、耐磨耗性を高めた。刃やセパレーターの材質や形状、回転数を変えることで目的に合わせた粉砕物ができる。従来、繊維状製品はかさばるため、ほぐしたり、切ったりした後、2次粉砕するなどして微細化していた。



繊維状製品を連続剪断する粉砕機「ファイバーミル」